

## 平成 22 年度 事業報告書

居宅介護支援事業所 大慈園

## 1. &lt;法人ヴィジョン&gt;

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. &lt;基本方針&gt;

- ①法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、高齢者の人権を尊重する。
- ②介護保険に関する法令の趣旨に従い、公平中立な立場から決定可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、又、自己決定ができるように援助する。
- ③知り得た利用者及びその家族に関する秘密については、利用や第三者の生命・身体等に危険がある場合など、正当な理由なく第三者に漏らさない。サービス事業者間においてもあらかじめ文書で同意を得ない限り個人情報を用いない。
- ④介護保険関連情報・サービス事業所情報・インフォーマル等の新しい情報の収集・利用に努める。

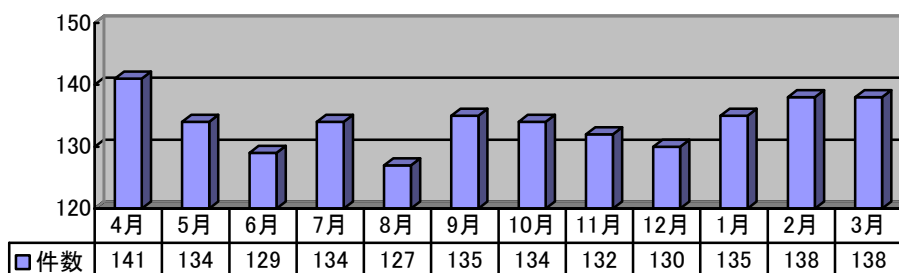
## 3. &lt;実績&gt;

## &lt;ケアプラン数&gt;

請求合計 1607 件 （昨年度より 57 件増加）

月平均は 133 件。充足率 90%（マックス 147 件／月）。

月別ケアプラン件数



## 4. &lt;目標に対しての報告&gt;

- ①地域包括支援センターの受託法人の居宅介護支援事業所として、地域包括支援センターと連携し、困難事例の解決をする。

→依頼のあった困難なケースに関しては、成年後見制度や各種保健制度を活用するため地域包括支援センターの専門職員と協働して対応をする事ができた。

- ②ケアプランの担当件数を総数 147 件数の請求充足率 95%を達成する。（請求数は入院中で戻ってくる可能性のある方・認定待ちの方を含む。）

→ケアプラン請求数は若干の改善がみられ平均 133 件となった。（昨年は 129 件）

新規の依頼も多いが、ターミナルケアに対する依頼も増えておりケースの担当期間としては短くなるケースも多い。

③独居高齢者加算（150 単位）・認知症加算（150 単位）・医療連携加算（150 単位）・退院・退所加算 I（400 単位）・II（600 単位）・初回加算（300 単位）の取り落としの無いようにする。

→各種加算に関しては漏れなく請求をするよう心掛けているが、独居高齢者加算に関しては住民票の取得等が必要なため、取得に関して家族の同意を得る事が難しいケースもある。

④困難事例については伝達会議等を通じてみんなで解決策を検討し、協力し合っていく。

→毎週金曜日の午前中に伝達会議を行い、各々ケアマネが現在抱えているケースの問題点を話し合い、問題点を独りで抱え込まないよう、職員全員で解決策を検討する事ができた。

## 5. 《会議》

法人内	地域
あんすこ・ケアマネ会議	西神地区ケアマネージャー連絡会
デイサービス部会	
大慈園での委員会等	

## 6. 《総括》

昨年に比べ、充足率は若干改善したものの、まだまだ余裕のある数字となっている。大慈弥勒園という特別養護老人ホームと同法人の事業所である為、将来を見据えた新規のケースの依頼もあり断ることなく対応をしている。しかし中にはターミナルケアに対しての依頼もあり、新規で依頼を受けても早々に亡くなられたり入院をされたりするケースもある。その為、ケース数の安定には繋がっていない。入退院の方や、介護保険申請待ちの方を担当している事を考慮すると現実的に充足率を100%とする事は難しいが、少しでも100%に近づくよう、努力をしていきたい。

個々の事例については毎週金曜日の伝達会議の場において情報を共有し、各々ケアマネージャーが悩みを一人で抱え込まないよう対処はできている。又、併設の地域包括支援センター職員とも必要な場合には連携・協働し対応をする事ができた。